

町指定文化財(天然記念物)

「藤の群生」

指定年月日／昭和四十九年四月二〇日
所在地／城里町岩船
管理・所有者／石船神社



▲神木に絡む大藤

町指定文化財「藤の群生」は、石船神社社殿の裏手に広がる森にあります。生育範囲はおよそ八〇〇平方メートルです。『桂村の文化財』(昭和五八年)では、「この境内の藤の群生は、地方まれにみるもので、最も大きいものは、目通り周囲・三メートル、開花期は壮観をきわめ、森閑とした境内にひときわ参拝者の目を惹きつけてくれる」と紹介されています。

現在では、フジの樹勢は衰退し、株数も減少してしまいました。それでも、写真の「神木に絡む大藤」のような大きなフジも残っています。往時には及ぶべくもありませんが、毎年五月には紫の花房が森を彩ります。

この「藤の群生」が所在する石船神社は、貞観元(八五九)年以前に創建され、延喜式内小社にも列せられた古社です。主祭神は、鳥石楠舟命(天之鳥船命)です。この神は、鹿島の神(建御雷命)の副使として天降りし、国内の平定に功績があったことから、鹿島神宮と縁深い那賀郡鹿島郷岩船の地に祭られたとも伝えられています。

また、祭神名が飛行や船舶を意味することから、航空・航海の神としても崇敬され、日英間初飛行の神風号や、連合艦隊司令長官山本五十六も本社に安全を祈願しています。境内には御神体の「兜石」や、雨乞い神事を行った「石船」、八幡太郎伝説の「矢の根石」などがあります。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

轉りもビデオに納め送信す
中野 千賀子
パンドラの箱閉じしまま烏雲に
今瀬 多代美
手の掌に落花とまらぬ月夜かな
森 静江
ギャラリーに変はりし生家山桜
綿引 英子
うぐひすの声まだまだと聞き返し
瀬谷 博子
田に向きし辛夷の荅誇らしげ
飯田 勇一

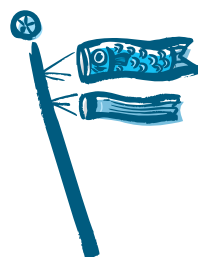
文芸しろさと

短歌

だまされる程の大金持たざれば心安らか動ずることなし
山形 式妙
おはようと焚き火の温みに掌をかざし感謝で加はるゲートボールに
杉山 みちこ
ふきのとふ両手一杯摘み溢れ春一番のよろこび分つ
大森 久子
新年を迎えし施設の友等みな面穏やかに明かるく見ゆる
佐川 あや
寺行事終えし快よき疲れあり歌誌を開きてしばし和めり
渡辺 千紗子

川柳

ゆつくりと会話はじまり花の下
竹内 幸子
山菜莢の咲かむと空の潤みけり
田口 勝元
赤津家に憲法祝日男の子
岩下 金司
山茶花のまろき日溜り鳥の声
仲田 まちゑ
手に取りてさらさらと振り種子おろし
寺門 孝子



アポ電と改元詐欺にはご用心
富田 多蔵
観光地先ず確認はトイレ
車田 綾子
ストーブで「E」ヤとしたことありますか
飯村 孝一
鯉のぼり令和元年初泳ぎ
川原 清

ひっそりとつつじの根本に福
春草咲きてうれしや黄花耀ふ
所 美恵子
夕ぐれて粉雪降る庭にすずめの
親子餌をついばみて口移し居り
島 愛子
令和とは何とやさしい元号
か詐欺も殺しも無い日本を
信田 育子

鶴の岬レースの如き白波の
よせては返す清しき海原
富田 佐智子
東京の桜花盛りなるこの佳き
日新元号の「令和」生まるる
萩谷 登喜子
頑張りが大きな春につながって孫は飛び立つ夢膨らませ
菌部 光子



高齢になっても心は老いない
ですべては自分の心がけから
富田 欽子
新令と平成最後の民の声夢
と希望が大地に響く
矢次 洋平